

*** ゴーチェ子午環が関東大震災で壊れなかった事情など**

ゴーチェ子午環(写真1)は1903年(明治36年)にフランスで製作され、1904年(明治37年)に納入されている。当時、東京天文台は麻布区飯倉の地にあった。この東京天文台は1923年(大正12年)9月1日の関東大震災で壊滅的な被害を受け、これを契機に北多摩郡三鷹村への移転が急速に進み、1924年(大正13年)9月1日から三鷹の東京天文台が正式にスタートしている。麻布の天文台には1880年(明治13年)に日本に到着したメルツ・レプソルド子午環があったがこの関東大地震で転落し大破してしまった。1904年に日本に到着していたゴーチェ子午環が関東大震災の被害にあっていないのは知る人ぞ知る謎であった。

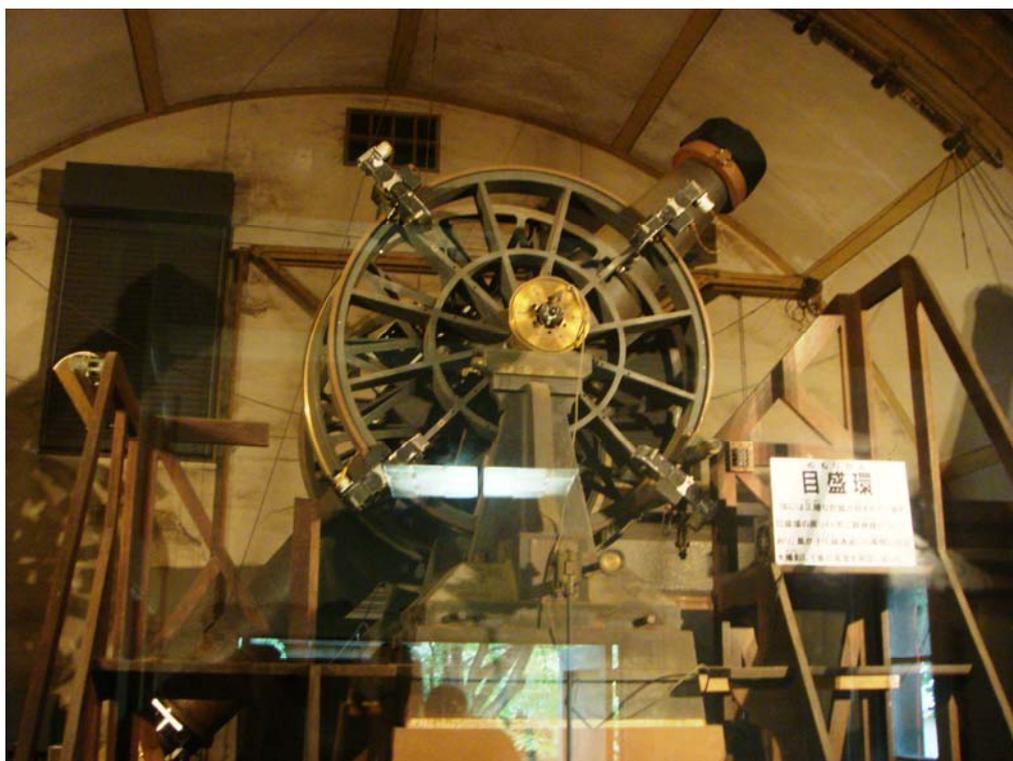


写真1 ゴーチェ子午環

麻布の東京天文台の敷地は海軍観象台の地であり、2500坪あったが、900坪は急な斜面で使えず狭隘であった。ゴーチェ子午環は南北100mのところの子午線標が設置されるので、麻布の地では展開できなかつたため、ほぼ梱包された状態だったために大地震の被害をまぬかれたのであった。明治43年、44年の東京天文台の会計書類に拠ると、1904年(明治37年)に納入され、長く観測に供されていなかったのであるから、数年も経つと会計検査院も黙ってはいなかったようで、明治43年の会計検査院から東京天文台に以下の照会

文書が来ている。漢字は現代字に直し、数字はアラビア数字にしたが原文のまま、

「明治 43 年度 会計書類 32 番 12 ページ：同上（理科大学附属東京天文台）器械子午環ゴーラーハ明治 37 年中佛国ゴチエーニ注文シ其代価一万九千百余円ヲ以テ購入シタルモノナリ 然ルニ 器械ハ之ヲ据付クルノ場所ナシトノ理由ヲ以テ同年到達以来荷造ノ俣同構内ニ放置シ 後七年ヲ経タル同 43 年 7 月ニ至リ初メテ或官舎ヲ荷解場ニ充テ僅カニ其一部ヲ解包シタルニ過キスシテ現ニ尚放置セリ 右ハ据付場所モナキニ巨大且高価ナル器械ヲ購買シ空シク数年間之ヲ構内ニ積置クガ如キハ当時不急ノ器械ヲ購入シタルモノニシテ歳出の使用其宜シキヲ得ザルモノト認メリ」

これに対して、東京天文台側が答えた答弁書があり、事情を説明している。以下の文書が明治 44 年の会計書類に残されている。」

「明治 44 年度 会計書類 21 番 8~11 ページ：理科大学附属東京天文台ニ於テ明治 37 年中佛国「ゴチエー」ヨリ購入シタル器械子午環ヲ数年間解梱セスシテ同構内ニ蔵置シアルタルノ批難ニ対シテハ茲ニ当時ニ於ケル天文台ノ状態ヲ説明シテ全ク同器械ヲ建設供用スルノ運ニ至ラザリシ事実ヲ弁セントス抑モ既往及現在ニ於ケル天文台ノ地域ハ甚狭隘ニシテ 2500 余坪ニ過キス然カモ此内不用ノ崖地約 900 坪アリテ到底天文台事業ノ発展ヲ期スルニ足ラサルヲ以テ他ニ適當ノ地ヲトシテ新設スルノ必要已ムヘカラサルハ当然ノコトニ属スルニ依リテ曩ニ天文台長ノ意見ヲ採用シ明治 34 年度乃至明治 39 年度間ニ於テ毎年文部省歳出臨時部予算中へ天文台敷地購入及諸建物建築費等金 36 万 9000 余円乃至 38 万 8000 余円ヲ計上シ要求スル處アリシモ政府ノ都合ニテ 34、35 年度ニ於イテハ予算全部をヲ削減セラレ又 36、37 年度予算不成立トナリ次 38、39 年度ニ至リテモ又予算全部ヲ削減セラレタルノ不幸ニ遭遇セリ而シテ是ヨリ先明治 33 年度ニ於テ天文台ノ機械購入費トシテ要求シタル約 2 万円ノ臨時費決定セシヲ以テ最モ重要ナル一子午環ヲ外国へ注文スルニ際シテ之カ到着ノ期ヲ 34 年若クハ 35 年中ト予期シ以テ連年要求セシ天文台ノ改築費予算ノ成立スルニ伴ヒ同器械ノ建設ヲ期待シタル所ニシテ次ニ明治 37 年度ニ至リ本件器械子午環ヲ購入スルニ際シテモ又同シク当年度ニ於テ要求セシ新営費予算ノ成立ヲ待ツテ同器械ノ建設ヲ予期セシ所ナリシモ連年新営費ハ成立ニ至ラス而シテ器械子午環ハ完成到達セシモ今仍之ヲ建設供用スルコト能ハサルニ至リタルハ実ニ遺憾ニ堪エサルモ前頭其当時ノ事情ヲ察知セス且之ヲ酌量セラレサル限りハ不急ノ器械ヲ購入シタルカ如キ批評ヲ免カレサル所ニシテ余儀ナキ次第ト云ウヘシ

超エテ明治 40 年度本学予算編成ニ際シ帝国大学ノ政府支出金ヲ法律ヲ以テ一定セントスルノ議アリテ明治 40 年 3 月ニ至リ帝国大学特別会計法ヲ改正セラレタルニ依リ明治 41 年度本学予算ニ於テ先以テ天文台ノ敷地購入ヲ予算シ府下北多摩郡三鷹村ニ於テ適當ノ土地 73000 余坪ヲ購入シ明治 43 年 1 月資金へ編入シ茲ニ多年期望ノ一端ヲ達スルヲ得タリ而シテ此間天文台建物ノ新営計画ヲ試ミサルニアラサルモ明治 40 年度以降政府支出金ハ一定ノ額ニ限定セラレタルヲ以テ其範囲内ニ於テ經營セラルヲ得ス然カモ臨時費ニ属スル諸科教室及医院其他新築改造ノ急切措ク能ハサルモノノ經營ヲ要スル等限リアルノ財源ヲ以テ数

多ノ新営ヲ計画スル能ハサルト新敷地ニ移築ノ経営ヲ為スノ容易ナラサルトニ由リ已ムヲ得ス今日ニ及ヒ遂ニ器械子午環其物ヲ未タ有用ニ供スルノ時期ニ到ラシムル能ハサルハ甚タ遺憾トスル所ナリ而シテ事実上記ノ如ク余儀ナキ次第ナレバ会計検査院ニ於テモ宜ク推判シ本学カ故ナク不急ノ器械子午環ヲ購入シタルニアラサルヲ認知セラルヘキコトト思考ス

但会計検査院ヨリ照会文中「子午環ゴーラー」トアル「ゴーラー」以下2文字判読不能」とあり、この書類の前に回答案なる文書も残っており、

「ゴーチェヨリ購入ニ係ル子午環ニ就テハ其注文以来年々之カ建設運用スルノ計画ヲ立タルモ該経費ノ要求当局ノ容ルル所トナラズ逡巡ノ間忽チ日露ノ事変ニ遭遇シ益々荏■（苒）今日ニ至リタルモノニシテ決シテ其当時不急ノ機械ヲ購入シタルモノニアラズ」

これらの文書からいろいろなことがわかる。日露戦争は1904年～1905年のことであり、まさにゴーチェ子午環が納入された頃のことである。莫大な戦費が、天文台が購入したばかりの子午環を観測に供するのを妨げた事情が推測される。明治41年に現在の三鷹の地に敷地は得られたが、天文台を移転する費用はなかなか調達できなかったようである。

ちなみに、ゴーチェ子午環は、当時の価格が19,100円余、三鷹への移転のための用地、移転費が36万～39万円ほどであった事が知れる。

このゴーチェ子午環が観測に使われるのは納入から20年余の年月が必要であった。三鷹の地にゴーチェ子午環のための子午環室(写真2)が完成したのは大正13年5月のことであった。



写真2 観測が行われていた頃のゴーチェ子午環ドーム